

シンポジウム「津波」を開催

シンポジウム「津波～その衝撃と全貌～」が、3月17日（土）、環境総合館レクチャーホールにおいて、災害対策室主催のもと、開催されました。

まず、佐竹健治独立行政法人産業技術総合研究所活断層研究センター副センター長が、津波に関する基礎知識と最新の研究成果について講演を行いました。次に、作家で歴史津波災害研究家でもある山下文男氏が、昭和8年に起こった三陸津波における自身の被災体験も交えて、明治、

昭和の三陸津波災害の実態とその教訓について紹介しました。これらの基調講演で、学術的な観点と具体的な被災体験の両面から、津波災害について幅広く学ぶことができました。

引き続き、2004年のスマトラ沖巨大地震津波で最大の被害を被ったインドネシアのバンダアチエにあるシャクアラ大学から招いた学生、プトゥリさんとナニさんが、安藤雅孝環境学研究科教授との対談形式で津波襲来の衝撃を語り

ました。その後、高橋 誠同研究科助教授、林 能成同研究科助手に会場の参加者が加わり、めったに起こらない津波災害にいかにかに備えるかについて、熱心な議論がありました。

会場は、85名の参加者で一杯になり、盛況のうちに終了しました。



基調講演をする山下氏



絵画による津波被災体験の紹介コーナー